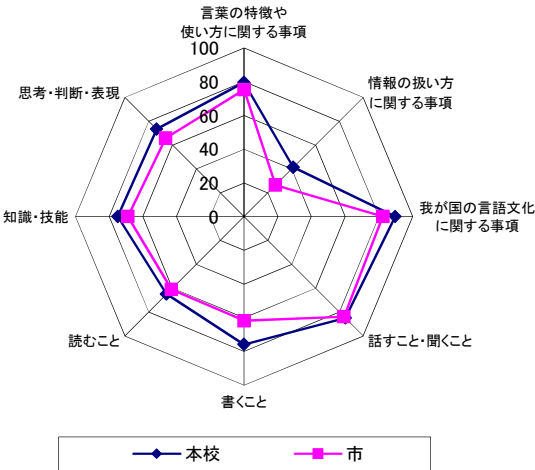


宇都宮市立平石北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.6	75.3	77.1
	情報の扱い方にに関する事項	41.4	26.5	27.8
	我が国の言語文化にに関する事項	89.7	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	85.1	83.9	84.2
	書くこと	75.9	61.7	64.5
	読むこと	64.9	60.9	61.0
観点別	知識・技能	74.9	68.8	70.3
	思考・判断・表現	73.3	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

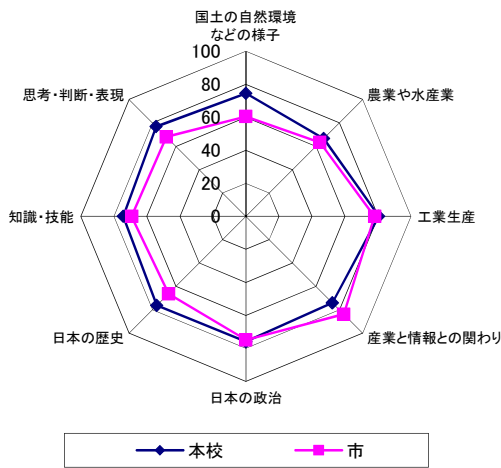
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	・平均正答率は、市平均より4.3ポイント上回っている。 ○文と文の接続の関係を理解しているかの問題では市の平均を24.4ポイント上回っている。 ○敬語について理解し、正しく使う問題では、市の平均を34.2ポイント上回っている。 ●5学年、6学年配当漢字を正しく読んだり書いたりすることには、個人差が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を正確に読み書きできるように、朝の学習やミニテスト、家庭学習において既習学習の習得を図る。 ・今後も漢字の成り立ちについて部首やつくりのはたらきを正しく理解できるように、例などを提示して、授業の中で随時取り入れ、学習できるようにする。
情報の扱い方 に関する事項	・平均正答率は、市平均より14.9ポイント上回っている。 ○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の平均を34.5ポイント上回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く問題では、市の平均を4.8ポイント下回っている。	・文章に書いてある情報を整理するような課題の取り組み方についての指導を充実させる。 ・ポイントを確認しながら、目的に応じて文を書くことや、お互い読み合うことの指導をしていく。
我が国の言語文化 に関する事項	・平均正答率は、市平均より7.3ポイント上回っている。 ○語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解しているかの問題では、市の平均を7.3ポイント上回っている。	・日本語が日本独自の言葉だけでなく、和語、漢語、外来語に区別されていることを学習することで、日本語への関心や諸外国との関わりについて興味をもって考えさせていく。
話すこと・聞くこと	・平均正答率は、市平均より1.2ポイント上回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかの問題では、市の平均を10.8ポイント上回っている。 ●インタビューの内容を聞き、話の内容を捉えているかの問題では、市の平均を7.9ポイント下回っている。	・学習活動や学校生活の中で、一つの議題をテーマにして話し合うような機会を設けることで、話の重要なポイントを聞き取れるように指導していく。
書くこと	・平均正答率は、市平均より14.2ポイント上回っている。 ○指定された長さで文章を書くことが、よくできているかの問題では、市の平均を29.1ポイント上回っている。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、市の平均を26.3ポイント上回っている。	・行事ごとに、気付いたことや感じたことを作文にしたり、テーマや文章の長さを設定して書いたりして、書く力の定着を図っていく。 ・「書く内容が見つけれない」「書き方が分からない」といった抵抗感をなくすために、文章の書き方を適切に指導し、書くことへの自信をもたせていく。
読むこと	・平均正答率は、市平均より4.0ポイント上回っている。 ○説明文を読み、叙述を基に文章の内容を捉える問題では、市の平均を9.8ポイント上回っている。 ●物語文を読み、登場人物の様子について描写を基に捉える問題では、市の平均を22.1ポイント下回っている。	・物語の読み取りについては、内容をどう読み取るのか、文章から重要な言葉をどのように見つけたらよいかを指導していく。 ・「心情の読み取り」と「情景の読み取り」の力を付けられるよう多くの物語に触れたり、音読に力を入れたりしていく。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	74.5	60.5	65.8
	農業や水産業	66.7	63.3	66.0
	工業生産	80.5	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	74.1	83.8	76.6
	日本の政治	75.9	74.9	74.1
	日本の歴史	76.3	66.3	68.3
観点別	知識・技能	74.3	69.3	71.4
	思考・判断・表現	76.8	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

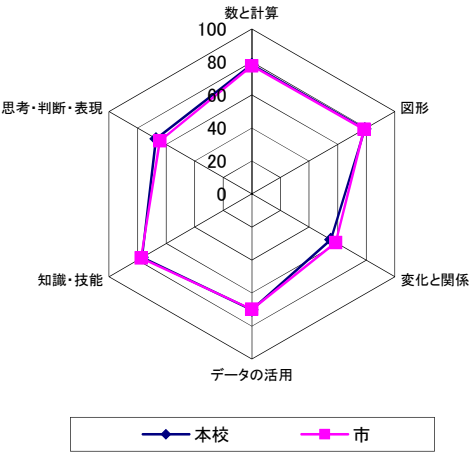
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・平均正答率は、市の平均より14ポイント上回っている。 ○海洋名や国土の構成についての問題では、市の平均を20ポイント以上上回っている。 ●太平洋側の気候の特色について季節風と関連させて考える問題では、市の平均を上回ったが、雨温図を読み取れず、つまり児童も見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中で地名や国名、海洋名などが扱われている場合は、その都度地図帳やデジタル地図などを見て、場所等を確認していく。 ・日本の各地域の気候の特色について確認するとともに地形や位置などと関連していることに興味関心をもちながら、天気予報を見る習慣を付けさせるなど意識付けを図っていく。
農業や水産業	・平均正答率は、市の平均より3.4ポイント上回っている。 ○食料の輸入が増えることによる問題点についての問題は、市の平均を15.6ポイント上回った。 ●主な食料の自給率についての問題は、市の平均を1.8ポイント下回った。	・日本の主な食料の自給率を確認するとともに、実感を伴って学べるようスーパーなどで食料品の産地を見たり、購入したものの産地について調べたりするよう指導する。 ・食品ロス、フェアトレードなど食料や食品に関する話題を取り上げ、児童の関心を広げていく。
工業生産	・平均正答率は、市の平均より2.6ポイント上回っている。 ○自動車の製造工程や日本の主な輸出品に関する問題の正答率は80ポイントを超え、よく理解できていた。 ●自動車の部品の再利用についての問題では、市の平均を17.9ポイント下回り、再利用の目的について理解できていない児童も見られた。	・4年生で学習したリデュース、リユース、リサイクルの3Rについて復習するとともに、身近な取組を紹介し合い、自ら実践できるように声掛けをしていく。 ・SDGsなど児童の関心のある話題を通して環境問題に関心をもたせ、資源の大切さやごみ問題について話し合う場を設け、自分たちができることを考える機会をつくっていく。
産業と情報との関わり	・平均正答率は、市の平均より9.7ポイント下回っている。 ○インターネット利用上の注意点や森林における間伐についての問題では、正答率が80ポイントを超え、よく理解できていた。 ●産業における情報の活用の問題では、市の平均を16.2ポイント下回っている。	・身の回りで情報が活用されている場面や、ものについて話し合い、情報を活用することで自分たちの生活の利便性が向上していることを実感できるようにする。 ・産業における情報の活用場面について紹介し合ったり、指導したりする場を設けるなど、具体的に理解できるようにする。
日本の政治	・平均正答率は、市の平均より1.0ポイント上回っている。 ○租税の役割について資料を読み取る問題では、市の平均を11.3ポイント上回った。 ●基本的人権の尊重についての基本的な考え方に関する問題では、市の平均を15.8ポイント下回っている。	・日本国憲法の三原則について、確認させるとともに、日本国憲法ができた当時の社会的背景を結び付けて考えるよう助言する。 ・権利や義務、三つの原則などについて、具体的な場面や事例を示しながら復習する。
日本の歴史	・平均正答率は、市の平均を10.0ポイント上回っている。 ○鎌倉幕府の政治についての問題では、市の平均を17.3ポイント上回っている。 ●豊臣秀吉の業績についての問題では、市の平均を12.4ポイント下回っている。	・歴史上の主な人物の業績について、当時の様子やエピソードなどを取り入れながら復習する場を設ける。 ・自主学习などで興味関心のある人物について調べ、政治のしくみや考え方を紹介し合う場を設けていく。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.4	77.7	78.6
	図形	79.0	78.4	74.4
	変化と関係	55.2	58.7	53.0
	データの活用	70.1	69.9	57.2
観点別	知識・技能	76.9	77.5	74.0
	思考・判断・表現	67.0	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

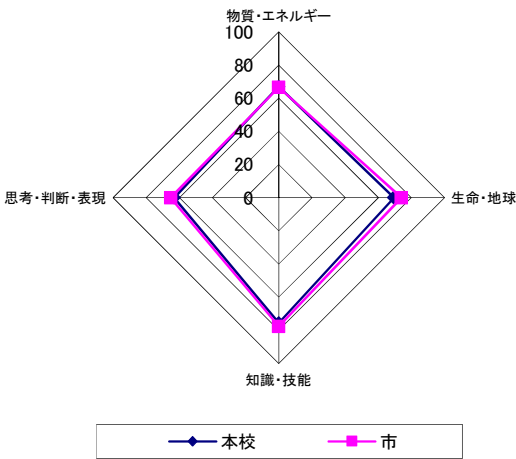
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、市の平均を0.7ポイント上回っている。 ○文字を使って、二つの数量の関係を1つの式に表す問題では、市の平均を11.6ポイント上回っている。 ●比較量が基準量の何倍になるか考える問題では、市の平均を17.2ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文章から数量の関係を数直線に書き表すことに努め、どの値が公式の何の値になるのかを読み取れるようにし、公式を使って立式できるようにする。 ・図を見て問題の場面を考えたり、式を導き出したりする問題に苦手意識のある児童が多いので、少人数や習熟度別学習の時間を利用し指導を進めていく。
図形	・平均正答率は、市の平均を0.6ポイントを上回っている。 ○六角形の内角の和の求め方を表す問題では、市の平均を10.9ポイント上回っている。 ●三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を問う問題では、市の平均を11.7ポイント下回っている。	・図形の合成・分解を自ら操作する機会を取り入れたり、具体物を使い視覚的に捉えられるようにしながら図形の特徴の定着を図る。 ・授業の中で既習内容の復習をする時間を設け、面積を求める公式など基本的な図形の知識の定着を図る。
変化と関係	・平均正答率は、市の平均を3.5ポイント下回っている。 ○速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題では、市の平均を11.2ポイント上回っている。 ●百分率について理解し、割引後の値段を求める問題では、市の平均を22.1ポイント下回っている。	・割合や速さの指導では、実生活との関連を図った問題を用いることで、自分たちの身近にあることを認識できるようにする。 ・百分率の意味を確認し、身の回りの事象に当てはめて考える場面を取り入れるなど、具体的に理解できるようにする。
データの活用	・平均正答率は、市の平均を0.2ポイント上回っている。 ○度数分布表を完成させる問題では、市の平均を12.4ポイント上回っている。 ●表から平均を求める問題では、市の平均を9.9ポイント下回っている。	・他教科や実際の資料等も活用し児童の関心を高め、データを読み取る力や多面的に考える力を育むようにする。 ・生活の中で様々な平均値を求める機会を作ることで定着を図っていく。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.0	66.5	66.3
	生命・地球	69.4	74.0	72.6
観点別	知識・技能	75.6	77.6	78.2
	思考・判断・表現	63.1	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	- 平均正答率は、市の平均と同程度であった。 ○「物の燃え方」の実験の結果について検討し、改善できるか問う設問では、正答率が89.7%で市の平均を18.8ポイント上回った。 ●「物のとけ方」のミョウバンの水溶液の重さを求める設問では、正答率が62.1%で市の平均を10.8ポイント下回った。	- 実験結果を検討したり、結果から分かることを説明する質問において、一定の正答率を示していることから、学習を通して科学的な見方や考え方を身に付けられていると言える。 「水溶液」や「ふれはば」などの基本的な用語の意味について、正確な理解が不十分であると考えられる。より科学的な説明ができるように、用語の正しい意味について確認をしていく。
生命・地球	- 平均正答率は、市の平均よりも4.6ポイント下回っている。 ○「天気の変化」のダム水位を減らしておいても、台風の恵みによってダムに水をためることができることを説明する設問では、正答率が93.1%で市の平均を14.2ポイント上回った。 ●「生物とかんきょう」のアメリカザリガニが水草を切ることによる影響を指摘できるか問う設問では、正答率が31.0%で市の平均を22.8ポイント下回った。	- 質問の意図を理解し、学んだ知識を活用しながら科学的に説明することができている。身近な自然現象について、仮説を立てたり、自分なりに調べ方を考えたりする活動を、今後も大切にして指導していく。 - ヒトが環境に与える影響については理解している児童が多いが、他の生物が与える影響については意識が低い児童が多いと言える。調べ学習をさせたり、事例を紹介し合ったりすることで、関心を高めさせたい。